フィンランディア最終稿成立までの流れ

		年	月日	曲の名称	テンポ指示等（数字は**初演パート譜**の小節数）・( )内はスコアの練習番号 冒頭	74 (D)	95	129	132 (I)	コーダ (O) 204～	小節数と**内容**	備考
第1稿	**《劇付随音楽》**の最終曲(7 曲目)として初演	1899	11・4	フィンランドは目覚める	**Allegro moderato**			**Meno moderato**	**Poco Allregro**	204～217	①14小節間 **闘争の主題」**	**"国民に勇気と希望をもたらす"**象徴として、当時発明されたばかりの蒸気機関車を模した**速めのテンポ**で始まる。
	ヘルシンキ公演（組曲の形式で）	1899	12・14	finale	〃			〃	〃			《劇付随音楽》を基に作られた組曲の終曲であったため finale と名付けられた。
	Viborg 市にて（フィンランド）	1900	4・2	〃	〃			〃	〃			
第2稿	パリ万国博参加記念公演他	1900	7・2他	Suomi、Vaterland他	〃			〃	〃	204～231	②28小節間 **讃歌の1番を金管合奏で」**	コーダ部の変更以外は初演と同じ譜面が使われた。当時支配していたロシアの圧力のため、無難な名前が付けられ演奏された.
	パリ万国博公演	1900	7・30	La Patrie	〃			〃	〃			
	シベリウスが自筆スコア紛失	1900	10末		〃			〃	〃			11 月 2 日に初演パート譜からのスコア再生を手紙で写譜師に依頼
第4稿	?! ***最初の*** ?! ?! ***ピアノ譜*** ?! ?! ?! ?! ?! この秋に出版されたと今まで信じられてきた。（資料番号 0843）	1900	秋?	交響詩《フィンランディア》	この時期にピアノ譜が本当に出版されていたとすれば、コーダや速度記号等その元本となった上記の版と同じ内容でなくてはならないはず。 しかし、実際には下記の内容、すなわちこの表最下段の最新版と全く同じ内容であった。 (Andante)	(Allegro assai)	(Allegro)	(sempre Allegro)	Poco Allegro	201～213 Pesante	③	シベリウスの最重要の事典とも言うべき**"Dahlström のカタログ"**に記載された'**ピアノ編曲譜が 1900 年の秋出版された**'の記述が、この説の唯一の拠り所であった。しかし下記欄外に記したような事実によってこの記述が誤りであることが明白になった。(本文注 2)
第2稿	ポピュラーコンサート	1901	2・10	交響詩《フィンランディア》	**Allegro moderato**			**Meno moderato**	**Poco Allregro**	204～231	②	パリ万国博公演時のパート譜がそのまま使用される。
	Viborg 市（フィンランド）	1901	2・28	〃	〃			〃	〃	204～216	③13小節間 **讃歌の冒頭4小節」**（4分音符を2分音符に拡大）	コーダ部分だけ③に変更
第3稿	**オーケストラ譜初版**（F&W 社）	1901	3 月	**交響詩《フィンランディア》**	**Andante sostenuto**	**Allegro Moderato**	**Allregro**（95～）			**2小節縮小**（説明右端） 202～214		《劇付随音楽》から【交響詩】への変更に伴い、冒頭部を現行の**"苦しみに耐える"**遅いテンポ表示に変更。初演の楽譜 192～195 の各音符の長さが半分に縮小された結果 192～193 へと**2 小節縮小**される。 95～の M.M.=104 は後に 131～と間違われ付けられた。
	オーケストラ譜再版（B&H 社）	1905	12月				**Allregro**（95～）（M.M.=104）					
第4稿	**ピアノ版初出版**（資料番号 0843）	1905		**交響詩《フィンランディア》**	**Andante**	**Allegro assai**	1 小節短縮したため **Allregro**（94～）	**Sempre Allegro**（128～）		計3小節短縮したため 201～213 Pesante		従来のオーケストラのスコアと比べ、内容の一部がさらに進化した**最終版**。78 からの 4 小節が、**3 小節に短縮**された他、無数に存在していたスコアのミスの多くが修正された。曲頭の Tim.の扱いも全く異なる。1930 年にシベリウスが 131～に新たなテンポ指示をしたことに連動し、128～は **meno moderato** に戻した
	オーケストラ最新版	2015	5 月		**Andante**	**Allegro assai**	**Allregro**（94～）	**Meno moderato**	**Poco Allegro**（131～）M.M.=104	201～213 Pesante		

注 1)上記表に対する根拠の多くは、残存する初演時のパート譜と、現存するピアノ自筆譜(1905 年出版の)、今まで使われてきたスコア、そして **Dahlström** のカタログの 4 つの資料から採られている。

注 2)カタログが"1900 年に出版された"と記載しているピアノ初版譜？の内容は上記表が示すように 1905 年のピアノ譜出版時に初めて改訂されたものと完全一致しており、1901 年の初版スコアにも載っていない最新アイディアが満載されている。もちろん 1900 年当時にはまだシベリウスの頭の片隅にも無かったアイディアである。それだけでなく、"1900 年初出版のピアノ譜の最初 6 小節の写真である"としてカタログに載せられている譜面も"その楽譜の 1 ページ目に記載されている"と書かれた楽譜の資料番号 0843 も、すべて 1905 年初出版の最新版ピアノ譜のものであった。つまり、カタログがそのピアノ譜の内容を全く吟味しないまま誤った記述をカタログに記載していたことは明らかである。

シベリウスの自筆の＞は、すべての曲で例外無く

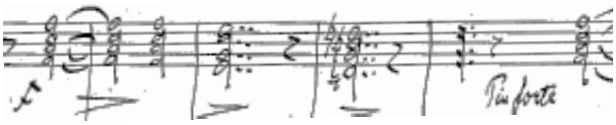
＊横に長く書かれ、短い場合でも、長さは音符 1 拍分以上ある。通常の形状で書かれた＞はほぼ皆無で、時には 3 拍～4 拍分もの長さを持つ＞もあり、多くの曲で松葉 dim.と間違えられて来た。

＊シベリウスは通常松葉 dim をあまり書かず、多くの場合 dim.記号を用いている。言い換えれば、松葉 dim.のような形状をしている場合の多くは＞を意味していると言っても言い過ぎではない。

＊＞は、本来の音符より半拍～1 拍以上右に書かれる場合も多く、小節をまたいだシンコペーションの場合には、2 拍以上後に横長の＞が書かれることも多い。

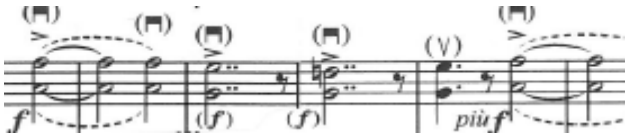
ピアノ自筆譜

62 小節



現行版；62 小節の＞が誤って 63 の 2 拍目に付けられ、次の 2 小節は＞が付け忘れられている。

62 小節

本最新版；上記自筆譜を一般的楽譜の書き方で書くとこのようになる。

62 小節